

平成27年度 自己評価表及び学校関係者評価、次年度改善策

教育方針：教育基本法及び学校教育法に則り、高等学校通信制の課程(普通科・単位制)の特色を生かした教育を進め、豊かな人間性と自律・自立の力を養い、人のため、社会のために貢献する人間を育成する。

- 重点努力目標：① 生きる力の育成(サンキューレターの充実、長期目標設定シートの活用、基本的生活習慣の指導の徹底、充実した学校行事、人権教育および健康・安全教育の推進、家庭との密な連携)
 ② 確かな学力の育成(分かる授業の徹底と基礎学力の定着、早めのレポート完成、コースに応じた学力の育成、学力に応じ一人ひとりを大切にしたい指導の徹底、授業録画ビデオによる研修)
 ③ キャリア教育の推進(正しい職業観・勤労観の育成、長期目標設定シートにより将来を設計、進学・就職指導の充実、保護者と連携した進路指導、資格取得検定合格、専門学校との連携)

領域	項目	具体的取組目標	目標達成状況・評価	学校関係者評価・提言(H28. 2. 4)	次年度改善策	
学習指導	教科指導の充実	生徒のレベルに応じた分かりやすい授業を行う。	各教員生徒の実態に応じた授業を工夫し、試みているが、全体的には今ひとつ浸透しきれていないところもある。	多様化している生徒への対応は大変なところもあるようですが、授業、レポート作成を通して、登校日に学習習慣の定着した生徒もでてきている。家庭と協力しながらやっていると効果は上がらないと思うが、先生が家庭教育の部分も担ってる所が多く苦労されているのが伝わる。	能力的にも、意識の面でも多様化している生徒への対応について、今後も試行錯誤をくり返しながら努力を続けていく。	
		生徒の活動を主体とした作業学習などの授業により学習意欲の向上を図る。	受け身ではなく、能動的に参加する生徒の姿勢が観られたが、まだ作業の範囲から検定を目指す実体化まで少数だができて	学校生活が楽しく感じる生徒と保護者の割合が高い傾向にあるのは、素晴らしいことである。	Wi-Fi環境も整いつつあり、作業学習から自主学習の習慣が身につくよう授業カリキュラムも変更していく。	
		視聴覚機器を利用して指導方法の改善に努める。	NHK放送視聴を中心に前向きに利用している傾向にある。	子どもの学校での様子や授業を観る機会があまり無いので、HP等で、そのような機会を設けて欲しい	利用することにより効果が上がるところは、積極的に利用して指導方法を改善していく必要がある。	
		授業力アップのため、授業録画ビデオによる研究に努める。	録画ビデオを生かしてお互いに反省や研究に努めることが出来た。	4月新学期が他校に比べ始まりが遅いので、受験組は学習への取り組みが遅れて来るので改善対策をお願いしたい。	授業風景をビデオに撮られる事はプレッシャーになるが授業力アップのための研修を今後も継続して行く必要がある。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	校則や身だしなみについて、校内のあらゆる場面で指導に当たる。	登校指導を中心に指導にあたっており、全体的良くなってきているが、携帯電話やSNSでのトラブルも出てきており、指導法が課題	様々なタイプの生徒さんがいらっしゃるの、生徒達はそれほど気にしていないが、その分先生方の指導が伝わらないところもある。仲のよいグループだけでなく、クラスや学年での輪が広がっているのはすばらしい。	今後継続して教員一人一人が粘り強く指導にあたること時には厳しい指導を心掛ける必要がある。外部機関との連携を生かし研修を充実させていく。	
		社会に必要なマナーやエチケットについて継続的な指導を行う。	登校時や職員室の出入り時の挨拶や玄関周辺(靴箱)の整頓等が全体的に良くなってきている。	生活指導全般に一律性を求める取り組みは無理があり、基準をどこにおくかで問題であると思う。また、学校だけの責任ではなく、家庭教育の影響は大きいので家庭の協力が無いと効果がないと思う。	今後社会生活をする上で基本になる大切なことなので、更に学校生活全体で習慣化出来るように指導していきたい。	
進路指導	問題行動の未然防止	日頃から、生徒と会話したり相談にのるなど信頼関係づくりに努める。	日頃から生徒の動向に気を配ったり、生徒が話し易い環境作りに取り組んでいる。質問、会話を円滑に行える環境ができてつあ	学校に楽しく登校することと厳しく指導することに矛盾したところはあるが、生徒が社会に出て受け入れられる人間に成長するためには厳しい指導も必要なのではないかと思う。一年前に比べると、街で見かける生徒の服装・身だしなみが大分良くなってきていると思う。	内向的な生徒や自分の気持ちを素直に表せない生徒への気遣いを更に高めていく必要がある。自己肯定感を高める校外学習を実施する。	
		学校生活全般について、保護者との密接な連携の取れた指導を行う。	学校生活全般について、保護者との密接な連携の取れた指導を行う。	転入生も多く、計画的な進路指導が出来にくいところもあるが、将来を見据えた高校生活を送れるよう取り組んでいる。高専連携キャリア教育も充実してきている。	家庭訪問や定期的な面談時は勿論のこと、それ以外の学校行事等の機会も利用して関係を深めていきたい。部活動(同好会)も出現してきており、長所伸長の中で、自己肯定感を高めるスロークを学校から積極的に投げかけて行く。	
特別活動	「感謝の心」を育む	運動会、スキー等の行事を充実させる。	運動に興味がある生徒は意欲的に活動できていたが、苦手な生徒へ体育授業の充実ができてきている。	ホームページに学校行事や学校生活全般にわたる内容が掲載されているが、記録としての内容が中心になっている。予定としての内容を充実させて頂いたり、年間で保護者参加(参観)できるものを載せて頂いたら学校の様子もよく分かるし、保護者が学校行事等への参加ができ易いと思う。子どもからは事後しか把握できない。サンキューレターの細かな指導をていねいにやってもらいたい親があった。	一人一人の適正や長所を考慮しながら、各種検定や資格試験に挑戦することにより、進路実現を図りたい。努力に合せて、表彰制度を充実させることで、認め合い、高め合う精神を向上させる。	
		サンキューレターによって、生徒の人間性の成長を図る。	サンキューレターによって、生徒の人間性の成長を図る。	機会を捉えて、外部機関からの進路情報を生徒に提供している。関心の薄い生徒もいるので、学内に専門家を招聘して意識づけを行っている。	多様化する生徒がいるなかで個々に進路指導の効果を上げるのは困難だが、親身になって接しているのは感謝している。学校からの情報提供をするなかで家庭への啓蒙や協力要請が必要である。	自分の生き方や卒業後の進路について関心の薄い生徒への効果的な対応策を考えていく必要がある。キャリア教育プログラムを確立し、在学中に職業への関心から夢実現のための努力が意欲的にできる環境を整える。
		進路選択に当たって3者面談等で保護者との連携を図る。	生徒の適正や興味と保護者の考え等について理解を深める事が出来た。	進路に対する意識の低い生徒に対して、アルバイト等で近未来的「何とかなる」という意識があるのが若者でもある。周りに流されながら社会に当然のように出て、もまれながら大人になっていく時代からニートやフリーターでも良いという感覚がある。学校の責任というより社会がそういう安価で使う形態になってきていることが問題である。	進路実現に向けて、今後の高校生活のなかで生徒1人1人の身近な目標・課題を克服することから取り組んでいく。	
		コースに応じて進学・就職対策を効果的に行う。	専門分野の学力の向上や模試・検定・資格試験への意欲的な取り組みへの促進が図られた。	ホームぺージに学校行事や学校生活全般にわたる内容が掲載されているが、記録としての内容が中心になっている。予定としての内容を充実させて頂いたり、年間で保護者参加(参観)できるものを載せて頂いたら学校の様子もよく分かるし、保護者が学校行事等への参加ができ易いと思う。子どもからは事後しか把握できない。サンキューレターの細かな指導をていねいにやってもらいたい親があった。	より多くの生徒に、各種模試・検定・資格試験を目標にして、自分の可能性を信じて努力する姿勢を身につけさせる。	